

平成 27 年度 第 2 回常任委員会議事録

- 1 期 日 ; 平成 28 年 2 月 5 日 (金) ・ 6 日 (土)
- 2 会 場 ; 岡山県岡山市 ・ ピュアリティまきび
- 3 出席者 ; 釜井部長、池田副部長、小原、中村、安藤、豊田、村田、松本、市ヶ谷、和田、伊勢、恒松、平、多田、本間(山口) ・ 田熊(山口)

4 議事

1. 挨拶 ; 全国高体連 F 部長 (釜井)

2. 大会運営について

①第 40 回全国高等学校選抜大会 (山口大会)

進捗状況について (別紙プリント参照)

- ・開会式は、各ブロックで集合・整列に変更した。
- ・用具預り証にマスクケーブルを追加し、サーブルマスクを削除した。
- ・競技会場のピスト番号を変更した。
- ・観覧席は、地区ごとに割り振りを行った。
- ・メンテナンス業者は、練習会場 (2F 武道場) 内にパーテーションで仕切った場所に出店してもらう予定。
- ・競技役員の変更。技術委員の伊勢先生を大槻先生に変更、事務局次長の豊田先生を削除、ピスト指導委員の大槻先生が技術委員へ、同じくピスト指導委員の佐藤先生を削除する。
- ・宿泊に関しては日本旅行に任せているが、岩国基地の工事があるため部屋の確保に苦慮している。そのため広島方面へ振ることも考えている。
- ・プログラムの掲載写真が届いていない学校が多くある状況。
- ・競技日程の 2 日目の決勝ピストを 1 ピストと 3 ピストに変更した。

②平成 28 年度全国高等学校総合体育大会 (山口大会)

進捗状況について(別紙プリント参照)

- ・諸会議の場所、練習会場、駐車場等変更・追加箇所の説明があった。
 - ・参加料は、値上げが予定されていたが全国高体連に問い合わせたところ、個人 4,000 円、学校対抗 40,000 円で昨年度と変わらないと回答があった。
 - ・用具検査判定基準の図解に一部訂正あり。
 - ・フルレマスクのペロについては、検討を要する。
- ルールブックで確認し、6 月の競技委員会へ諮る。

③第 41 回全国高等学校選抜大会 (山梨・甲府大会)

- ・進捗状況について、釜井部長より説明があった。

④プログラム編成会議

- ・地区通過順位報告用紙の HP 掲載がなかった。
- 競技委員長に作成を依頼し、次年度大会には整える。
- ・プログラム編成は滞りなく終了する。

3. 報告事項

①平成 27 年度行事報告 (安藤)

- ・27 年度行事について報告あり。

②競技委員会報告 (伊勢)

- ・臨時競技委員会及び第 2 回競技委員会について報告あり。

③強化普及委員会報告 (恒松)

- ・27年度フランス指導者講習会の中止について説明・報告あり。
- ④平成27年度全国高体連報告 後期(釜井)
 - ・経費削減について審議された。専門部としては、引き続きできることはしていきたい。
 - ・32年度(2020年)インターハイについては、分散開催候補地調整連絡会が立ち上がり、動きが出てきたが、遅々として進まないのが現状。
 - ・予算の裏付けが取れないので、できるだけ経費を圧縮した形で考えている。
 - ・現在検討している候補地の他にも意外にも複数の候補地を考えておいた方が良いのではないか？
- 2月末の全国高体連の会議結果を見て考えたい。
- この件に関しては、8月の常任委員会で部長・副部長に一任するという事になっている。
- ⑤平成27年度日本フェンシング協会報告 後期(釜井)
 - ・リオオリンピック出場に向けて調整中である。
 - ・資金繰りに関しては、強化に集中している状況がある。

4. 協議事項

- ①平成28年度行事予定案について(安藤)…承認
 - ・28年度行事予定について説明あり。牧杯の日程が未定、情報があれば教えてほしい。
 - ・役員改選期に当たるため、第2回全国委員会・平成29年3月18日(土)を追加。
 - ・第2回競技委員会は、開催期日が11月25日(金)・26日(土)になり、例年よりも早くなっている。
 - ・28年度以降の大会開催地について、情報交換を行う。
- ②平成28年度予算案(恒松)…承認
 - ・28年度予算の概要について説明あり
- ③強化普及員会提案事項(恒松)…承認
 - ・再度、フランス指導者講習会を9月2週目または3週目で実施したい。
 - ・フルーレ以外の指導(エペ・サーブル)も入れることはできないのか？
- 参加者の人数にもよるが、藤澤先生と相談し、調整する。
- ④競技委員会提案事項
 1. 全国選抜大会改革最終案(別紙資料)について…承認
 - ・委員長より、開催、ブロック割、試合方式、競技日程、参加費、監督等最終案について説明あり
 - ・北海道・東北ブロックが出来た経緯から考えると、登録数を考慮してブロック割を行っているとは思えない。ブロック割案はいつ出されたのか。
 - 第一回常任委員会で出されている。
 - ・北海道・東北ブロックから見るとこの24の割り振りについては、地区間の不平等や疑問がある。今年度の登録数は、個人登録が北海道・東北48、関東687、東海293、北信越237、近畿261、中国205、四国105、九州277。学校登録は、北海道・東北61校、関東70校、東海39校、北信越33校、近畿45校、中国28校、四国13校、九州46校となっている。登録数を考慮するなら、この数字入れて検討しても良いのではないか。
 - 24の割り振り案は、登録数だけではなくブロック内の県数や競技の普及という観点も取り入れ、割り振っている。
 - ・細かな登録数を優先に割り振りを考えると、地区予選の出場校枠等も考えなくてはならなくなる。一番分かりやすい数字として各ブロック内の都道府県数で割った予選突破率が平等により近いものになっている。
 - ・北海道・東北ブロックが一つになったのは、9ブロックを8プール制に割り振ると1位校が2つ入るプールが出来て、不平等になるという点から統合された。
 - ・登録数から考えれば、中国・四国ブロックを統合する案が出てもおかしくない。

- ・登録数を優先にすると不正が行われて、自分のブロックの枠を確保するための細工が出来てしまう可能性もある。
- ・北海道を分離して欲しいということではなく、ただ単に登録数や都道府県数で割り振るのでは北海道・東北ブロックが一緒になった意味がなくなるのではないか。
- ・ブロック予選は都道府県から1チームしか出てこない。この点から都道府県数を中心に割り振りを考えることになった。
- ・北海道・東北ブロックを一つのブロックにした時は、8ブロックが良いということと北海道の登録人数が少ないのに1枠あるのは不平等ということで一つになった。そういうことを含めてこの問題の平等性を考えなくてはいけないのではないか。
- ・フルーレに関しては、インターハイのシード権も懸かっている。9ブロックよりも8ブロックの方がより平等性があると考ええる。

※このブロック割を再検討することになると大幅に後退し、三種目学校対抗戦の実施が山梨大会では出来なくなる。山梨大会はこのブロック割案で実施し、山梨大会の状況を見て、引き続き競技委員会、常任委員会でブロック割案について、検討していくことにまとまる。

- ・選抜改革の進捗状況が分かる目に見えるものを作って、HPに載せて欲しい。

→要項案を載せてはどうか？

→総務委員会で検討する。

2. 選手交代規程の変更について（別紙資料あり）…報告事項

- ・旧ルールは、一度交替した選手は同じ試合に戻れなかったが、新ルールでは戻ることが出来るようになった。
- ・この規程は、リレー試合で適用するもので、インターハイとは試合方法が違うので適用できない。
- ・このルールは、山口選抜大会から適用する。

→岩国の実行委員会から出場監督にメールで周知して欲しい。

→一斉送信は可能だが、見ない監督には対応できない。

→HPに組合せと一緒に載せる。

- ・このルールは、リザーブ選手の交替についての規程で、怪我人についてのものではない。
- ・「競技について」を変更する必要がある。規約規程集の改正が必要である。

→山口選抜大会では、監督会議で再度説明する。

- ・怪我で交代した選手は、その日の残り試合に出場できなくなるのか？

→医師の許可があれば出場することが出来る。

3. グローブ規程について…報告事項

- ・穴の開いている(ボディーコード通す穴も含む)ものは、国際ルールでは使用できないことになっている。日本F協会からの告知はまだ出ていない。販売業者は既に対応している。日本F協会からの告知を受けて、競技委員会で対応を協議する。

⑤総務委員会提案事項…承認

1. 選抜大会競技方法変更に伴う規約規程集の改正について（別紙資料あり）

- ・選抜大会の競技方法変更に伴い、規程集に改正する項目がある。変更項目は、1 試合管理規定第6条、第10条、第12条、補則5表彰物品、補則6大会の「競技について」の2. 全国高等学校選抜大会 [5]、以上の項目に関して、説明あり。
- ・賞状を選手一人一人に渡してあげたい。筆耕は1枚で、選手分を用紙のみ、もらうことは出来ないのか。

→他競技では、学校に1枚がほとんどだと思う。フェンシング競技は、サービスとして出していると思う。

→未記入賞状が悪用される可能性があるのではないか。公印の入っているものを未記入で渡すのは、本来してはならないこと。

※この件は、総務で検討する。選手にメダルを出す案も含めて再検討する。

⑥その他

1. 全国高体連へ直に登録している県(兵庫県)がある。全国専門部より、県専門部の立ち上げを打診してもらえないか。

→情報をもう少し集めて、釜井部長より打診してもらい、対応は釜井部長に一任する。

2. 来年度の登録について

- ・現行のUSBを使用したものから、データのやり取りに変更したい。方法については、全国選抜までにお知らせする。

5 平成28年度専門部役員について

- ・日本F協会正会員を変更した。現在は、釜井部長が理事と正会員を兼ねているが、日本F協会から、この状態は良くないと指摘された。そこで、南関東常任委員の安藤に変更したい。

→承認

6の選抜出場校、7の28年度登録について確認した。